

## 2022 年度放射線授業事例コンテスト 放射線授業事例

タイトル	ここまでできる放射線教育 ～中学2年生理科「電流とその利用」における授業実践～
所 属	札幌市立あやめ野中学校
応募代表者	森山 正樹
対象（校種・学年）	中学校2年生
教科・領域・単元	理科・エネルギー領域 電流とその利用
ね ら い	放射線の種類や性質を知り、放射線は身近にあることを知るとともに生活の中で様々な用途に利用されていることや放射線から身を守ることについても理解し、自分なりの考え方をもつ。
授業での実践	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施
キーワード	放射線, 遮蔽, 利用, 高レベル放射性廃棄物, 地層処分
内 容	<p>日本科学技術振興財団が貸し出している放射線に関する実験機材を活用することによって、充実した放射線教育を実践することができることを報告した。実践は中学2年生理科の「電流とその利用」で行った。教科書の単元構成と順番を変え、最初に電流の正体を探る中で、放射線について扱った。その際に、生徒が実験を通して放射線に関する現象を探究するようにした。具体的には霧箱を作成して観察、放射線の遮蔽、距離との関係について学習した。単元の発展として、原子力発電によって生じるゴミについても扱い、高レベル放射性廃棄物の地層処分について扱い、子どもたちの資質・能力を育成した。</p>
参考文献	